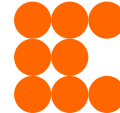


情報種別 : 厳秘(関係者限り)
会社名 : 地球コーポレーション株式会社
情報所有者 : 地球コーポレーション株式会社



再生可能エネルギーのもつ巨大な可能性

高見裕一

2011年5月12日

IPCCとは



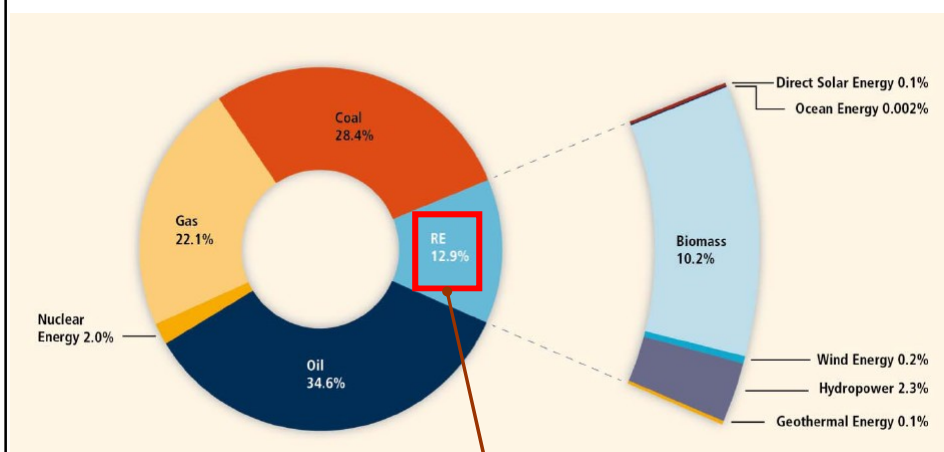
気候変動に関する政府間パネル(英語: Intergovernmental Panel on Climate Change、略称: IPCC)とは、国際的な専門家をつくる、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構である。学術的な機関であり、地球温暖化に関する最新の知見の評価を行い、対策技術や政策の実現性やその効果、それが無い場合の被害想定結果などに関する科学的知見の評価を提供している。数年おきに発行される「評価報告書」(Assessment Report)は地球温暖化に関する世界中の数千人の専門家の科学的知見を集約した報告書であり、国際政治および各国の政策に強い影響を与えつつある。

※Wikipediaより抜粋



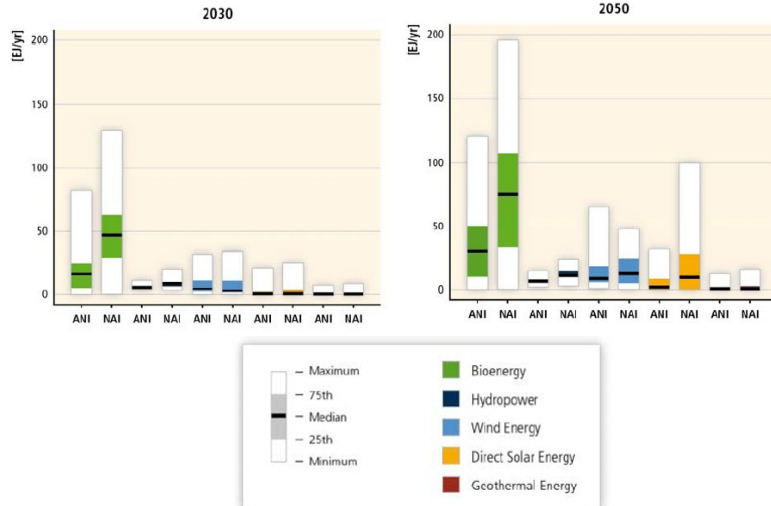
IPCCは政策担当者向けのサマリーレポートで、「今後40年間で風力、ソーラーなどの再生可能エネルギーは20倍に成長し、これにより世界のエネルギー需要をまかなうことができる」と述べた。

またこれに伴う世界の投資は2030年までに12.3兆ドルとなる。



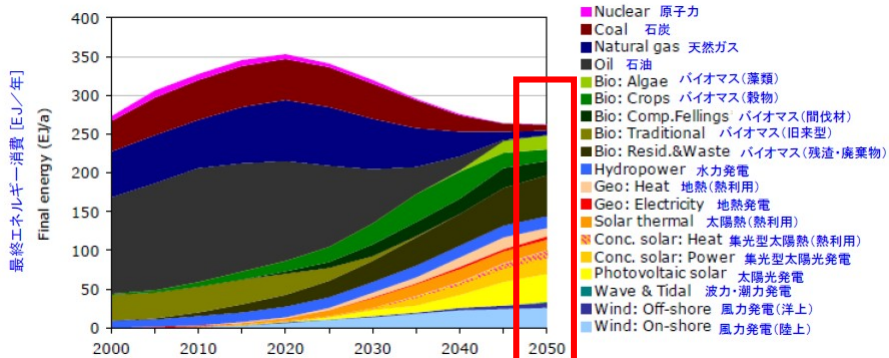
✓ 現在、再生可能なエネルギーの割合は12.9%に過ぎない。

IPCCレポート: 拡大する再生可能エネルギー



✓ 再生可能エネルギーの割合は、今後更に増えることが予想されている。

WWFはより大胆に再生可能エネルギーの可能性を示唆しています



✓ 2050年には再生可能エネルギーだけで、ほぼ全てのエネルギー需要をまかなうことが出来ると予測。

